

ジネンコロキウム #18

自然(ジネン)と科学と文化と私たちを想ふ

重なる時を紡ぐもの

時の重なりとは、いったいどのようなものでしょうか。それは、水に落ちた一滴のインクが静かに広がっていくようなものなのか。あるいは、長い歳月をかけて積み重なる地層のようなものなのか。どちらにせよ、私たちはその重なりから何かを紡ぎ出さずにはいられません。それはなぜなのでしょう。

今回のジネンコロキウムでは、時間・場所・記憶、そして生の痕跡を探求する美術家・宮森敬子さんと、土地の記憶を素材に閉じ込めるテロワール活動を推進する研究者・河合洋平さんをお迎えします。お二人それぞれの「重なる時間を紡ぐもの」についてお話しいただき、参加者のみなさんとともに、時の重なりと私たちの関わり、そしてそれを紡ぐ営みについて想像を広げていきたいと思います。

美術家 宮森 敬子

神奈川県生まれ。筑波大学大学院芸術研究科日本画専攻修了。三木多聞賞(1994)、文化庁新進芸術家海外留学制度によりペンシルバニア大学大学院(米国)に在籍(1998)。作品は絵画・彫刻からインスタレーションへ展開し、日本とアメリカを拠点に制作。極薄の手漉き和紙や木炭など自然素材を用い、時間、場所、記憶と生の痕跡を探求している。2011年からは日々の記憶を可視化するプロジェクト《TIME》を継続。主な展覧会に、「記憶の海 - Roseのプライド」(中村屋サロン美術館、東京、2023)、「Surfaces of Time」(ときの忘れもの、東京、2023)、「Portrait of Being」(mhPROJECTnyc、ニューヨーク、2023)などがある。

研究者 河合 洋平

早稲田大学理工学部応用化学科修士課程を修了後、旭硝子株式会社(現AGC株式会社)に入社。専門技術はナノマテリアルを用いたウェットコーティング。現在、素材の会社AGCで技術本部企画部協創推進グループとして協創活動を行う傍ら、クリエイティブな活動を通じて素材の新たな価値を探求するUNOU JUKUを主催。「人を癒すガラスをつくりたい」という想いからクリエイターとの協創を始め、「空を閉じ込めたガラス」や土地の記憶を素材に込める「素材のテロワールプロジェクト」を通じて素材の情緒的な価値を探求している。

2025.10.5 (日) 14:30-17:30

横浜・みなとみらい PLOT48 内 ExPLOT Studio
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい4-3-1 PLOT48

会場
みなとみらい線 新高島駅 2番出口より徒歩7分・みなとみらい線 みなとみらい駅 3番出口より徒歩10分
横浜市営地下鉄ブルーライン 高島町駅 2番出口より徒歩10分
JR 東海道線 横須賀線 京浜東北線 東横線 相鉄線 京急線 横浜駅 東口より徒歩20分
JR根岸線 横浜市営地下鉄ブルーライン 桜木町駅より徒歩20分

参加
<https://jinencollquiem17.peatix.com/>
一般: ¥3,000 会員: ¥1,000 学生: 無料
定員 50名

主催: ジネンコロキウム事務局
協力: BankART1929 株式会社横浜都市みらい



ジネンコロキウムとは

銀河群、太陽系、地球、生命、人間、細胞、分子、原子、素粒子までが、何層もの関係性を経た現象となっています。森羅万象、有象無象、時、空間、歴史、社会と人の関係性を、科学を通してマクロとミクロの双方、縦横無尽に語り合い、新しい視点、好奇心を呼び起こす楽しさ、歡びを共有する対話の場です。